別紙５

ヒアリング調査結果

NO	出身地及び在住地	年齢	性別	婚姻	1．いつ柏崎に移住しましたか、何歳のときですか。（いつ頃移住する予定ですか）	2．移住を検討しようと思ったきっかけは、何ですか。	3．移住先に関する情報収集はどのように行いましたか。	4．移住前に地域との交流の機会や繋がりはありましたか。	5．移住先を検討するに当たり、仕事や住まいなど、困ったこと・心配事はありましたか。	6．最終的に柏崎への移住を決断した決め手は何ですか	7．移住しよう・住み続けようと思える柏崎の魅力は何だと思いますか。	8．移住後の柏崎に満足していますか。柏崎に足りない点は何だと思いますか。	9．移住希望者に柏崎に来てもらえるような施策アイデアや、定住者に永く住み続けることを促すような効果的な施策アイデア、またご意見等があれば教えて下さい。
1	①柏崎市内出身で現在、柏崎市内に在住している	40歳～44歳	男性	既婚者	2017年（4年半前）。現在42歳。	山梨に住んでいたが、3人目の子どもができてアパートが狭かったのと、実家で子どもも見てもらいたいと思ったことがきっかけ。	高校卒業まで柏崎に住んでいた。1年	実家に帰ってきた際には、同業者の創風システムの社長に挨拶したり、従業員にお話しを聞いていた。		他に選択肢を考えていなかった。本当だったらもう少し時期が早ければよかった。	海が好きなので魅力に感じる。先日も子ども	人口減少で公共インフラが維持できるかが不安。人口減少を前提としてどうするかも考えないといけない時期にきていると思う。 子どもたちが遊ぶところ夏以外に。雨の時に体を動かせるところが足りない。	優秀な同級生が柏崎に残らなかった。そういう人たちが受け入れ口になる勤め先などがあるとよいのですが。
2	①柏崎市内出身で現在、柏崎市内に在住している	40歳～44歳	女性	既婚者	2022年（これから）。今年10月中旬以降。	家族の転職を機に、夫婦どちらかの親がいる所へ定住を考えだしたこと。東京都での暮らしに疲れたこと。	ネット、両親、友達。	両親や友達。	急いではいないが、良い仕事が見付かるか心配。寒冷地ゆえの冬の厳しさが心配。	主人の実家の大阪へ移住する予定でしたが、昨今の不動産高騰により断念し、自身の実家のある柏崎に変更。中古住宅を探していたところ、ちょうど実家の近くに中古住宅があったことが決めて。	子どもを持つ者としては、食べ物が美味しいこと、海が近い、自然が豊かなことが子育てをしていく上で嬉しいです。	集客できる観光地、魅力のある施設等が海以外ない。（過去あってもなかなか存続できなかった点）交通網の欠如。新幹線も通らない。直通の特急がなくなった。（柏崎→金沢→大阪へ行きづらくなった。）長岡への快速が数本しかない。車文化がネック。	家族や子育て世帯に魅力的で充実した施設を新設しアピールする。市が打ち出してる補助金の政策は、国基準にのっとったものだそうで（市役所問合せ済み）柏崎市に沿ったものに変えないと難しい。東京都の移住者のみへの補助金を他の地域県外からにする、もしくは制限を緩める。かなり制限が多いので補助金を貰えず、柏崎市を除外する人もいると思う。出雲崎ではどこからの移住者に対しても一律100万円を支給と聞いたので参考になるかと。（調べてはいないが。）
3	①柏崎市内出身で現在、柏崎市内に在住している	40歳～44歳	女性	未婚者	2011年 31～32歳の時	福島の震災。東京にいたが、小さい子供が二人おり、不安だった。まわりに助け合う温度感もなく、離れている親のことも考えた。 今までは、働くことを中心に土地を選んでいたが、子供中心の生活になり求める場所が変わった。東京は子供を育てながら仕事ができる環境ではなかった。小さい保育園に詰め込んでいることへの罪悪感や、月の保育料も高額だった。公園へ行く道も狭く、安全とはいえないなかった。	母や、おばさんたちが勝手に情報をもってきてくれた。	交流はなかった。出た先のほうがつながりが濃かったのでとくには交流の機会もなかったが、地元に帰ったときは、あたたかく迎え入れてもらっていた。	仕事はそもそもないと思っていた。自分がやりたい仕事はない。やれることをやろうと思って帰ってきた。 ただ、自分は、なんとでもできると思っていたが、パートナーが仕事ができるかは心配だった。 子供を産みに帰ってきていたので、助けてくれる親がいうことは本当にありがたかった。 正直、子供さえ預かってもらえればなんでもできる気がしていたので、そんなに心配はしていなかった。	子供の笑顔をみれる時間が多いか少ないか。 当時は仕事をしながら託児所に子供を預けて、子供に接する時間が少なく、自分が子供の笑顔がみられる時間、母親を感じられる時間が少なかった。 柏崎に戻ってきてから圧倒的にその時間が増えた。	小さい子を抱えながら仕事をするにはバランスがいい。大都会では埋もれてしまうようなことも、これぐらいの人がいることでできることもある。 柏崎の夕日。ほかでも夕日はみえるけれど、柏崎の夕日はとてもきれいにみえる。そこに暮らしがあるからかもしれない。 ぎりぎり交通の便もよくて、ほどよく利便性もよく、食べ物もおいしい！素材がよい。（塩をかけるだけで美味しいというような。）ここの人は当たり前だと思うことはあたりまえじゃない。空気も空もきれい、水もおいしい。 子供が安心してくらせる。邪魔にされない。子供がいることがごめんなさいと思っていたが、子供がいてうれしいといってもらえる。人が違う。生き急いでいない。 帰ってきてから、地元の美しいものがみえるようになった。	電灯、明るさが足りないかもしれない。散歩に行くが、夜暗いので、防犯上も少しこわい。 美術館などアカデミックなものが足りない。 美術館はそれを見にわざわざお金を払ってくるレベルのものがほしい。そういうものに敏感な人が育たないので、感度の高い人を呼べない。子供がそういうものに触れ、外に出て感度を磨きまた戻ってくると、文化度も上がっていくと思う。	県内で柏崎しかない住みやすさ。30代前半でおうちを建てたり、そのあたりの世代が求めることに答えられるといい。てくてくのような遊び場などがあればよいのかもしれないが。 柏崎に住むことでとくをすることができるようななにか。稼ぐのはデジタルで稼いで、住むのは柏崎が良いと思えるような。。時代が変わって（仕事や生活の）選択肢が増えたので、人がやっていないことを、やってみたいことがある人にとっては、今チャンスだと思う。そういう人をサポートする施策が柏崎にあるといいと思う。 とにかく、外からくる人を大事にする！ウェルカムな状態をつくるといい。自分の周りでも、人間関係や空気についていけず、柏崎を離れた人が何人かいるので。 また、8にある、美術館などの文化度をあげるものも感度の高い人を呼ぶきっかけになるかも。
4	①柏崎市内出身で現在、柏崎市内に在住している	40歳～44歳	女性	既婚者	2008年（14年前）。30歳の時にUター	妊娠した際に、子どもを育てるのには東京より柏崎の方がいいかなと考えるようになったのがきっかけ。当時夫が大学生だったので、より物価や家賃が安い柏崎の方がいいかなと。	中学までしか柏崎にいなかった。両親	あまり親族以外は交流はなかった。 新潟市の高校に進学し寮生活を送っていたが、仲が良かった友人が柏崎出身だったので、その友人とは東京に行ってからも連絡を密にしていた。	仕事が心配だった。東京のベンチャー企業に慣れていたので、田舎の企業との差が大丈夫かなと懸念していた。	それしかなかった。東京で親無しで子どもを育てるのが、困難だった。当時住んでいた渋谷区には空いている保育園がなかった。	子どもの教育環境がいい。都会よりは人数が少ないのもあって、翔洋や長岡附属中があったりで教育的には恵まれている。プログラミングに関しては東京ほどのものはないが、多くの習い事が一通りできたり、学習塾もたくさんある。 野菜が安い。子どものために無農薬無化学肥料の野菜を作っていた。畑を無料で貸してくれたり自然と触れ合うことができるし、自然を使って何かやりたい人にとってはすごくいいと思う。 子どもの医療費制度はいい。薬代は無料。診察も530円。	仕事とカネ。ブラックな企業が多い。労働時間の割に賃金が安い。東京は賃金が高い。土曜日も出勤したりしている。 都会にある仕事が柏崎にない。新卒入社がメインで中途でも入れる一流企業がない。手に職を持っている人ならいいが、例えば商社マンが帰ってきて働くところがないように思う。地元のIT企業を受けたが、面接で合わないと思った。東京だと髪型も服装も自由だったのが、制服があったり出社時間が厳しかったり。なので起業した。会社が変わらないと人は来ないと思う。古臭いと気づいていない。ブルボンでさえ制服に着替える。	一般のレベルでいうと仕事が紹介できるかに尽きる。 もしくは、富裕層のリモートワークしている人を呼ぶ。そうなると子どもの教育と柏崎の海と山を気に入ってもらうことが大事。
5	②柏崎市内出身で現在、柏崎市外に在住している	30歳～34歳	男性	未婚者	柏崎出身。大学で東京に。一度新潟の金融機関に就職し8年間勤務したが、再度東京に。32歳。1年半後に移住予定。	コロナをきっかけにたまに柏崎に帰ることがあって改めて自分のなかでいいまちだという感覚がでてきた。	SNSとヤフーニュースと地元の人の	交流はさほどないが、柏崎の人のSNSを常にみている。 新潟のアンテナショップにいくと柏崎を感じたりすることもある。そこで新潟出身者との繋がりもできた。	困ったことなどはない。柏崎に戻った際、仕事は自分で事業をやろうと思っている。まちおこしにも興味がある。	自然豊かで過ごしやすい。なんでもありす	生活してくぶんには困らない。海も山も川もあって自然が揃っている。人と人との繋がりもある。コロナ禍で柏崎に戻ってきた際に新しい出会いがあったりで、こういう柏崎にはこういう一面があったのかと再認識した。お店関係もチェーン店ではなく個人経営のあっておもしろい。例えばプロテインカフェなど個性的で楽しい。	政治に若い人が少ないところ。マネーリテラシー。資本形成。教育の部分のところ。投資とか資産運用に興味がない人が多い。 柏崎の親世代は話が通じない。感覚が違うと感じる。	目玉になる施設がほしい。 土地もたくさんあるので、移住に繋がるかは別として、人が集まる場所としてコストコなどのショッピングモールを作ってはどうか。
6	②柏崎市内出身で現在、柏崎市外に在住している	25歳～29歳	女性	未婚者	完全に移住するかどうかはわからないが、本年10月～12月まで短期で柏崎に帰ってくる予定。現在29歳。	一人娘なので家族のことが心配。柏崎に住みながらでもリモートで仕事ができる見込みがついてきたこと。	主にネットと両親からの情報。	Instagramでの同級生や柏崎のフォロワーさんとのやり取り。 東京北Exchangeロータリー衛星クラブに入っているので、柏崎中央ロータリークラブの方と交流がある。	免許がないので車社会に不安がある。 都会との情報格差。ネットだけでは仕入れら	家族を想う気持ちと柏崎への愛着。日本で移住するとしたら柏崎以外考えられない。	花火。外国人からすれば、都心よりも地方に興味がある人も多い。海、田舎町、花火、スキーなどアピールしてほしい。十日町は外国人も結構認知している。	活気がない。洋服店がない。ハイレベルの美容室がない。ミスドがなくなったのがショック。東本町、フォンジェが静かになってしまった。高校生の時はもう少し活気があった。市民プラザでLIVEを頻繁にやったりもしていた。 ただ最近Instagramを見ていると、少し面白い方が出てきたりで期待が膨らんでいる。ぜひ活気を取り戻してほしい。	関東の学生向けに合宿を行ってはどうか。柏崎のイイところで遊んでもらうと同時に企業見学もしてもらう。 「マリンスポーツ＆企業見学ツアー」 お試し移住もいいが、まだ東京を楽しみたいという学生にすれば、「移住」ときくとハードルが高い気がする。ネーミングも大事。
7	③柏崎市外出身で現在、柏崎市内に在住している	25歳～29歳	男性	未婚者	2017年（5年前）。就職した先が柏崎の営業所をもっていて3年間働いてやめた。現在28歳。	就職先の配属先がきっかけ。川崎に住んでいて田舎に憧れはあった。大学時代に群馬の田舎で泊まったりよくしていた。人が少ないところにきたかった。結果的に住みやすかったし雰囲気として自分にはあっていた。	ネットくらいしかない。	繋がりは一切なかった。	会社員をずっと続けるという感覚がなかった。田舎に行ってそのうち何かしようと思っていた。 車をもっていないので、生活拠点が心配だった。	住みやすさ、お店を持つということが決め手。	今のところ定住しようと思っている。何も不満がない。柏崎の人柄が優しい。そういう方に支えらえて店が成立している。関東だと隣に誰が住んでいるかわからない状況。魅力は人。観光地だと新潟、長岡、上越だが、住んでみると柏崎は温かい。知らない人に話しかけても会話してくれる。お客さんが店の前を除雪してくれた。	不満という不満はないが、人がいなくなって、お客さんが減ることが心配。 大きい会社が誘致されればいいと思う。 遊ぶところと交通の便が悪い。映画館ほしい。 車ない人にとってはバスの本数増えてほしい。	まずは来てもらうことが大事。とにかく働く場所を増やす。農業とか林業とかやりたい人も全国にはいると思うので、きちんと募集していることを発信していくのがいいと思う。できれば柏崎を離れたくなかったけど資格を活かした仕事が柏崎にないので転出した人もいた。 学生の頃、起業家から話を聞く機会はなかったが、そういった機会があると起業も増える思う。
8	③柏崎市外出身で現在、柏崎市内に在住している	25歳～29歳	男性	未婚者	2021年4月に移住。現在28歳。	仕事の転職のタイミング。大阪の大学での仕事の契約が切れるタイミングで野外活動系の現場で働ける仕事を探していた。大阪ではなかったので野外活動のネットワークを検索していたところ、今の会社の代表がネットワーク上で求人をかけていて繋がった。	ネット。知り合いに直接聞く。移住支援	求人があってZOOMで話を聴き、2日間だけ現地をみにいった。 もともと新潟とか長野での田舎暮らしに憧れはあった。長野にはよく旅行に行っていた。	雪の暮らしに心配はあった。雪国生活を経験してない人からしたら情報を探すのも一苦労。市の住宅補助を使った際に、雪かき用のスコップを貸し出すとかの支援があると良いと市の職員に伝えた。	現地に来た2日間で仕事の現場にいって、子どもたちに運動を教えている他の職員の姿をみて、良い活動をしているなと感じ自分もやってみたいと思ったこと。	住めば都と言われるがその通りだと思う。柏崎の魅力を言語化できないのが課題だと思う。アウトドアをする人にとっては、自然環境を押し出すのはいいと思う。映像を使ったりして、非日常のキャンプとかしてみませんかと発信していくべきだと思う。どんなところかわからないと飛び込めない。	情報発信が足りてない。大阪にいたときに柏崎という場所は聞いたこともなかった。素材はたくさんあるので、発信していく必要がある	柏崎の若者を中心としたイベントを企画する。そのイベントにきた若者のマンパワーを使って、共通のハッシュタグをつけた発信をしていく。頻繁にアンケート、情報発信など定期的にSNSをしてほしい。柏崎の人が当事者意識を一人一人がもって考えていく。そうすれば広がりが加速するのでは。子どもに聞いても面白いのでは。
9	③柏崎市外出身で現在、柏崎市内に在住している	35歳～39歳	男性	既婚者	令和元年3月に移住。36歳でした。	株式会社WithYouで小林社長に誘って	全く情報が無かった。友人が数人（水戸部さん、矢島さん、西村さん、福祉系で西川さんや清水さん（現新潟市に転居））いた位で殆ど分からなかった。	一度だけ、ロングランの代表の西川さんが講演会に呼んで下さってパネルディスカッションに参加した。株式会社WithYouの2周年パーティにゲストとして参加した。	小林社長が文字通り移・職・住をすべて紹介してくれた。正直、全く知らない土地で知っているのは数人だったので不安はたくさんあった。だが、社長が移動は車屋さんも紹介して下さったり、会社の車を一時的に貸してくれたり、住居は八幡開発さんを紹介して下さって、今も住んでいます。社長や社員の方に引越しの手伝いもして頂き、仕事以外の部分もサポートもしてくれた。	小林社長から「一緒に働こう!!」と言って頂き、当時、長岡の介護施設も検討していたんですが長岡に住んでも結局、柏崎の友人のところに遊びにいくだろうなと思ったので、柏崎にいっそ引っ越そうと思った。	所々でターニングポイントはあった。例えば、1年目は柏崎の自然が好きになったことと、きこえない人たちが歓迎会を開いてくれた。柏崎に住んでいるきこえない人達はほとんど私に会ったことがなかったが、珍しく手話通訳士が柏崎市に引っ越してきたということで歓迎会を開いてくれた。2年目にライクワークスクールに参加して、自分で活動していく意味や街の人とも触れ合うようになっていき、3年目は活動で多くの人に知ってもらうことが多かったので今に至っている。 まとめると、住み続ける理由をもって移住してくる人は少ないと思う。言い換えると目的をもって移住してくると人も少ないし、もし目的をもって移住してくる人がいるなら住み続けられると思う。武藤さんの場合は転職が移住の理由、住み続ける理由が起業になった。みなさんにとってそれは理想的な形なのかもしれないが、私の妻は結婚して移住でしょうし、私の子ども移住ではなくここが故郷になるので個人差が大きいと思う。魅力という言葉が適切かわからないが、しいて言えば起業家や活動家がいることが魅力だと思う。その他、東京で10年程手話通訳活動をしていて、柏崎は後進地域でした。8万人弱の地域なのに、市長のYoutubeには手話通訳がついておらず、通訳派遣制度も今は変わったが利用者の不満が多かった。その点で自分にきこえない人たちは期待と仲間として助けを求めていました。小林社長が言った「武藤君がこの柏崎に来たのも何かの縁があってきたんだから、今までやってきた人に何を言われようともここで制度を変えていくしかないんだよ」という言葉には感銘を受けた。自分に期待して応援してくれる仲間がいることも住み続ける理由になったと思う。	移住に関しては私は満足している。妻はまだ移住してきていないですが、多分、都会的な街並みが好きなので商業施設がないところが足りないと思う。その他で移住者とその家族を支援する施策が弱い（支援策の発信が弱い）と感じている。どの施策も予算があるので期限が付きまとうのは致し方ないが、情報を得にくい。移住者支援の賃貸補助なども通っているプールのおばちゃんから教えてもらった。例えば、住民票を変更する時に施策がありますよ!!と、教えてもらえるとか、知ってる人だけが得をするみたいな施策は結局、活用しずらいと思う。施策や補助金はおおむね市報でお知らせ頂くが市報は県外の人はみないのでSNS宣伝にお金をかけたり、中小・大も含めて企業に移住支援のパンフレットやチラシを積極的において頂けると嬉しい。自分は小林社長に生活部分のサポートをしてもらって移住できたが、普通の会社ではそういうことも難しいと思う。補助金が税金ということはわかるが、移住者も結局税金を納めるので、そこに関しては情報をかなり広い範囲にして、申請方法を簡素化して、過疎化について真剣に向き合っていったほうが良いかと思う。	バスなどの公共交通機関を時間通りに運航する。バス停で待っている人を見逃さないとか、時間より早く着いたら待っているとか、除雪を長岡のようにしっかりして頂くとか公共インフラの充実は移住者にとってもありがたいと思う。

ヒアリング調査結果

NO	出身地及び在住地	年齢	性別	婚姻	1. いつ柏崎に移住しましたか、何歳のときですか。(いつ頃移住する予定ですか)	2. 移住を検討しようと思ったきっかけは、何ですか。	3. 移住先に関する情報収集はどのように行いましたか。	4. 移住前に地域との交流の機会や繋がりはありましたか。	5. 移住先を検討するに当たり、仕事や住まいなど、困ったこと・心配事はありましたか。	6. 最終的に柏崎への移住を決断した決め手は何ですか	7. 移住しよう・住み続けようと思える柏崎の魅力は何だと思いますか。	8. 移住後の柏崎に満足していますか。柏崎に足りない点は何だと思いますか。	9. 移住希望者に柏崎に来てもらえるような施策アイデアや、定住者に永く住み続けることを促すような効果的な施策アイデア、またご意見等があれば教えて下さい。
10	**③柏崎市外出身で現在、柏崎市内に在住している**	35歳～39歳	男性	既婚者	2004年、24歳	就職の為。	移住前の情報収集はほとんどしていな	独身時代は全く繋がりがなかった 仕事の都合で一旦新潟市に引っ越し(2009年)、その後また柏崎に戻って来た(2011年) そのタイミングで結婚し、翌年子供が生まれたので、それからは徐々に近所付き合いや地域のイベントへの参加が増えている	特にはありませんでした。	就職の為	「程よい田舎感」(不便さを感じるほどではな	若者向けの娯楽施設？ 自分(小学生の子供持ち)の世代としては、夢の森や子供王国、アクアパーク、産大・工科大イベント、等々 それなりに充実しているかと思うが、 子供達が中高生になって友達同士で柏崎のどこで遊ぶのかイメージできない。	移住先の物件を見つけやすいといい
11	**③柏崎市外出身で現在、柏崎市内に在住している**	35歳～39歳	女性	未婚者	2016年（6年前）。29歳の時。	柏崎市の友達にアパートを借りてシェアしないかと誘われたことがきっかけ。	ネットや、柏崎市の友達の話。	実家も長岡なので、柏崎市の友達がいたという事だけ。	当初から勤め先が長岡で、移住後も長岡の仕事を続けるつもりだったので通えるかが不安だった。	信頼のおける友達とのシェアで家賃が安くなるのが決め手でした。勤め先は長岡ですが柏崎に近いの場所だったので、勤め先を変えずに引っ越せるならと思った。	生活するのには十分困らない。雪が少ない。	ほぼ満足している。洋服などの買い物をする店やレジャー施設がない。	ショッピングモールなど若い人が行きたがる施設があれば買い物が便利なだけじゃなく、若い人の働き口も増えると思う。 出産できる病院等の選択肢が欲しい。
12	**③柏崎市外出身で現在、柏崎市内に在住している**	40歳～44歳	男性	既婚者	2009年に移住。	結婚を機に奥様のお父様が経営する会	柏崎についてはネットで検索すると共	奥様の実家なので、年に何度か訪問して	来る前から雪について不安はあったが、来てみると想定以上に雪が降った。除雪機などの補助があればいいなと思った。	東京より暮らしやすそう。東京のど真ん中で働くよりいい。都会すぎず豊かな暮らしができそうと思った。	子育てしやすい。海でもスキーでもすぐに連	道路網が悪い。高速降りてから繋がらない。海に抜ける道も悪い。ここに行けば柏崎ってとこがない。どこを中心だと思っているかの観点が市民にも行政にもない。 駅前の駐車場がない。駐車場と小さなショップがいくつかできれば散策ができるようになるのでは。駅前と本町通りのどちらに注力するか明確にした方がよいのでは。 ネットがあるし大規模ショッピングモールまではいらないが、中高生がクレープ食べて帰る場所なくらいはほしい。	新潟工科大学を実益のある大学に変革させる。例えば、就職成績をあげてもらう。中高生にプログラミングを教えてあげるなど市民参画ができる講座を開講する。本大学に行けば何かスキルつけれる大学へ。 IT/リテラシーが高い地域の一助になる。 仕事が大事。賃金が高くないなら、それを逆手にとって工場を誘致。 皆、大学に行きすぎ。高卒でも大卒と同じ生涯年収を稼げる仕事があればよい。
13	**③柏崎市外出身で現在、柏崎市内に在住している**	40歳～44歳	女性	既婚者	2007年（15年前）27歳のときに移住。	結婚。ご主人が柏崎の方。ご主人は関西の大学を卒業して新潟市で就職し、結婚と同時期に柏崎市内の会社に転職。佳世さんは結婚を機に大阪から柏崎に移住した。	ご主人から常に聞いていた。ご主人とは学生の頃からのお付き合いで、学生の時から柏崎に遊びにきていた。当時は特急きたぐにがあって比較的、大阪ー柏崎間も安く行くことができた。	ご主人のご両親くらいで他には繋がりはな	ご主人の実家近くに土地を買っていた。家を建てるまでの間もご主人の実家もあったので住むところには困らなかった。 車の免許はあったけどペーパードライバーだったので、そこが心配だった。	何度も来ていて悪い印象はなかったし、結婚だったので来るしかないという感じです。	山も海もあって自然がいっぱい。八石山なども時々登る。ご主人と子どもがSAPを楽しんでいる。近隣に越後川口温泉などがあるのも魅力。 スノーボードとかスキーをする人にとってはなおいいと思う。 0歳児から保育園に入るまでの間に子育て支援室に連れていくと友達ができたりしたので子育て環境はいいと思う。	住めば都。ほとんど満足している。 しいていえば冬が辛い。雪もだし、空の色が毎日グレー。	仕事があるのかどうか。これに尽きる。ここを埋める施策が必要だと思う。
14	**③柏崎市外出身で現在、柏崎市内に在住している**	45歳～49歳	女性	既婚者	2021年6月。現在49歳。	横浜市から結婚の為台湾へ移住し、台湾で事業をしていたがコロナの為中断したので日本へ帰ろうと思った。	知人、子供の話。	知人や子供。	住まいの情報が分かりづらくちゃんと引っ越し	子供が柏崎の別のアパートに住んでいたことが決め手です。知人がアパートを探してくれ手続きも進めてくれた。	優しく接して対応してくれる。日常生活には不	新鮮ないいものを手軽に安く食べれて、フラッとぼ入りやすい飲食店が少ない。特に夕食時なのに活気がない。	インテリアや洋服を買いに行くときに、交通手段がほぼ車になってしまうので車について補助金等があると嬉しい。空家や古い建物が活用されていないように思えるので、建物を購入してもすぐに負債になってしまう気がする。上手く活用する街になればいいと思う。
15	**③柏崎市外出身で現在、柏崎市内に在住している**	50歳～54歳	男性	未婚者	2008年34歳の時。	陶芸をしており、仕事場が山間地の工房が多かった。独立をしようとした時、知人に柏崎を勧められた。	知人から。	ほとんどなかった。知人とのつながりはあったが、柏崎を訪れたことはそれまではなかった。	生活をするために、むしろ選択肢はなかったので、一番困ったのは住まいと仕事場。震災の翌年に移住したので、大工が足りず、工事を請け負ってくれるところがなかった。地域の工務店さんが面倒をみてくれるといってくれなければ、来ることはできなかったかもしれない。	工務店さんが工事を引き受けてくれたことと、山での仕事が多かったので、海のみえる土地に住みたかった。	暮ていて困ることはない。高速も近いし、西にも東にも行きやすい。 実際に県外の旅行者で、柏崎に宿をとり、そこを拠点にレンタカーを借り、弥彦など県央に遊びに行き、次の日は十日町の大地の芸術祭に行き、最後柏崎の飲食店で餃子を食べて帰っていった人たちがいる。柏崎の観光という意味では、柏崎の中だけで観光させるのではなく、もっと柏崎が新潟県の中心に位置しているメリットをいかして、柏崎を新潟観光のハブとしてPRしていったほうが可能性が広がると思う。	柏崎は昔からある良いものを活用するということより、新しいものを作ろうとすることが多く、今ある施設や資源を活かしきれていないように感じる。 また、市街地に住めばあまり感じないかもしれないが、コンパクトシティを市が進めようとしている中で、市街地に集中するように郊外の学校がなくなっていくと、郊外の若い世代も子供のことを考え市街地に流出してしまう。そうすると、郊外の過疎化が進み、どんどん郊外に目がいかなくなってしまう。 空き家は郊外に増えていっている。そのミスマッチ。（空き家バンクなどで住む場所として紹介する場所が子育て世代に不便な郊外にこれからもっと多くなるということ。） 今移住定住を進めようとしたとき、郊外の地域としては、そういった若い世代の少ない地域にも住んでもらいたいと思うのに、教育の場が遠いとやはり住みづらいので、選択肢から外れてしまう。 医療を受けたくても、郊外を通っていたバスがなくなり、病院に通う必要のある高齢者は、一週間の内2日間の間で予約をとれといわれている。そのうち町医者などは水曜日が定休日のところが多いのに、予約をとれる曜日の内、一日は水曜日。病院に通うだけで予約をとるのが遅くなると、一日がかりで町の病院まで通わなくてはいけない。どうせバスの予約をとらなくてはいけないのであれば、せめて1週間のうち、どこでも予約をとれるようにしてほしい。	住む場所の紹介は必要だと思う。 外から来る人へのPRとしては、地元の人が実感としてお勧めできる特産品など、市がしっかりPRすることも一つ。また、地元の人にもその特産品を、もっと食べてもらう機会を増やす。例えば、夏場解禁になる笠島もずくなど、地元の人はそれが美味しいことを知っているが、旬の時期にこのもずくを食べられる飲食店の紹介をするなどあまりされていないし、特産品としての認識が低くあまり力を入れてPRされていない。柏崎の古くからある名産品(鱈の親子漬け・魚卵塩辛)といわれるものも、地元の人が食べる機会が少ないので、食べられる機会を市が力を入れて提供する。PRしようとしている食材を地元の人がしらなかったり食べたことがなかったりするので、市外の人に「これは地元の人に有名なんですか？」と聞かれても答えられない。まずは、地元の人が本当に美味しいと思っているものをピックアップしたり、知ってもらう機会をつくること。 冬の日本海（鯨波）で、波のはながみれるなども季節を愉しむ一つになるし、そうやって一年を通して柏崎を愉しむことができる。 新しいものを作り出すことよりも、今あるものの良さをしっかりPRすることの方が大事。それが地元の魅力をしってもらう機会になる。 理想としては、地元のお店の人たちがコンシェルジュになれるといいと思う。 お店の人が実感をもっておすすめすることが、魅力として伝わり実際に喜んでもらえればそれが地域の評価につながる。